新機能および変更された機能に関する情報

- 変更点, on page 2

変更点

Table 1: 新規および変更されたインターフェイス機能, on page 2に、このマニュアルにおける新機能および変更された機能の要約、および各機能がサポートされているリリースを示します。ご使用のソフトウェア リリースで、この文書で説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報および警告については、https://tools.cisco.com/bugsearch/ の Bug Search Tool およびご使用のソフトウェア リリースのリリース ノートを参照してください。

Table 1: **新規および変更されたインターフェイス機能**

機能名	説明	リリース	参照先
ポート ビーコン	この機能は、Cisco N-Port Virtualizer（Cisco NPV）モードで動作している Cisco MDS スイッチでサポートされています。	8.4(1)	インターフェイスの設定
ポート ビーコン	この機能を使用すれば、データセンター環境内の個々のスイッチおよび直接接続されたピア ポートを識別できます。	8.3(1)	インターフェイスの設定
バッファ間クレジットの回復	この機能は F ポートでサポートされています。	8.2(1)	インターフェイス バッファの構成
Fibre Channel over Ethernet（FCoE）	新しい FCoE コマンドが導入され、ファイバチャネルで使用されるコマンドに合わせて一部の FCoE コマンドが変更されました。	8.2(1)	輻輳管理
ポート モニタ	コア スイッチを Cisco NPV スイッチに接続するリンクは、ポートモニターではスイッチ間リンク（ISL）（コアポート）として扱う必要があります。以前は、コア ポートはアクセス ポートとして含まれており、構成されたポートガード アクションの対象でした。これにより、Cisco NPV スイッチに接続するポートには影響を及ぼさずに、本当のアクセス（エッジ）ポートでのポートガード アクションが可能になります。	8.1(1)	インターフェイスの設定

ファイバチャネルの輻輳ドロップ タイムアウトとクレジット切れフレームタイムアウト値	コア スイッチを Cisco NPV スイッチに接続するリンクは、ファイバーチャネルの輻輳ドロップ、クレジット切れドロップ、およびスローポート モニターのしきい値を設定するために、ISL（コア ポート）として扱う必要があります。以前は、コア ポートは、輻輳ドロップまたはクレジット切れドロップ モードの F 値で何らかの変更があると、その影響を受けました。	8.1(1)	輻輳管理
低速ドレイン デバイスの検出と輻輳回避	新しい輻輳分離機能は、ポート モニターまたは手動構成を介して低速ドレイン デバイスを検出し、ISL 上で正常に動作している他のデバイスから分離できます。低速ドレイン デバイスへのトラフィックを分離してしまえば、正常に動作している残りのデバイスへのトラフィックは影響を受けません。トラフィックの分離は、次の3つの機能によって実現されます。 **1.** 拡張レシーバ レディ：この機能により、サポートするスイッチ間の各 ISL を 4 つの個別の仮想リンクに分割し、各仮想リンクに独自のバッファ間クレジットを割り当てることができます。1つの仮想リンクは制御トラフィック用、1つは高優先度トラフィック用、1つは低速デバイス用、残りの 1 つは通常トラフィック用です。 **2.** 輻輳分離：この機能により、構成コマンドまたはポート モニターのいずれかによって、デバイスを低速として分類できます。 **3.** 輻輳分離のためのポート モニター ポートガード アクション：ポート モニターには、デバイスを低速として分類できる新しいポートガード オプションがあり、デバイスに流れるすべてのトラフィックを低速仮想リンクにルーティングできます。	8.1(1)	輻輳管理

変更点

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。